

祝 辞

経済産業省 製造産業局 産業機械課長

玉井 優子

一般社団法人日本建設機械施工協会が創立70周年を迎えられたことを、心からお喜び申し上げます。

70年を振り返りますと、戦後の国土の復興・開発、高度経済成長、前回の東京オリンピックを契機としたインフラ整備により日本経済が大きく成長して人々の生活が豊かになる一方で、2度のオイルショック、バブル経済の崩壊、リーマンショック、東日本大震災など経済や社会の厳しい環境変化がありました。

日本建設機械施工協会の皆様は、こうした荒波の中でも研究開発や標準化、人材育成といった取組を通じて我が国の建設の機械化を精力的に推進され、建設の生産性の向上に努めてこられました。日本の建設機械施工業の発展に大きく貢献してこられたことに深く敬意を表したいと思います。

現在の日本の製造業は多くの課題に直面しております。

AIやIoT、データの活用、5Gといった新しい技術をどう取り込むのか、それに伴って現れてくる新しいプレイヤーとどう対峙していくのか、世界で急速に進む「第四次産業革命」といった新しい波にさらされているというのが大きな1つの課題で、また、高齢化に伴う企業の事業承継の問題や深刻な人手不足、足下で申し上げれば米中貿易摩擦の影響といった環境の中で、裾野の広い日本のサプライチェーンをどう維持していくのか大きな課題になっております。

こうした中で経済産業省では、日本の産業競争力の維持・強化のために従来の技術、企業、業種を越えた新しい繋がり、「オープンイノベーション」を通じて、新しい技術や製品、新しいサービス、ソリューションといったものを生み出す「Connected Industries」を掲げており、政策の1つの柱として進めているところです。

建設現場におかれましても、ITやドローンといった新しい技術の導入、建設機械を扱うオペレーターの高齢化、人手不足といった様々な課題に直面しておられます。

その中で日本建設機械施工協会では建設機械の製造業、建設業、整備業、商社やレンタル業など色々な分野の方々が集まり、まさに建設をめぐる「Connected Industries」そのものであると考えております。

そのような意味で、建設における省人化、自動化、そして生産性向上を実現していく上で非常に重要な役割を担われており、i-Constructionに代表されるような建設にかかわる新しいソリューションを次々と生み出し、日本の経済発展に引き続き貢献していただくことを期待しております。

最後に、創立以来70年にわたり建設の機械化、生産性向上に努めてこられた皆様の活動に改めて敬意を表しますとともに、この度の70周年という節目の年を新たな起点として、更なる飛躍を果たされることを祈念いたしまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。